

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
人体構造機能学Ⅱ		必修	2	1	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
坂本宏史	富士山キャンパスD305	sakamoto	木曜日 10:00～13:00		
授業の目的・概要	人体構造機能学Ⅱでは、生命を活用する動物機能(骨格系、筋系、神経系、感覚器系)と人体を保護して種を保存する機能(皮膚、免疫系、代謝と運動、体温調節、生殖系、発生、老化)について学修する。また、自律神経や内分泌による生体の調節機構を学び、人体構造機能学Ⅰで学んだ様々な植物機能が調和して生命を維持するためにどのように調節されているのかを理解する。そして、人体の解剖見学を通して人体各部の組織と構造の位置関係を理解し、これまで学んできた学修を深める。上記について遠隔授業や課題学習等を通して理解し、その後の授業においてフィードバックや意見交換を行い包括的な理解につなげる。				
授業形式・方法	<input type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学習) <input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技 <input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> プレゼンテーション <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク <input type="checkbox"/> その他()				
学習上の助言	本科目は、医療従事者にとって基礎となる科目であるため予習・復習が重要である。また、授業内容に関する質問は、授業中および授業前後に受け付けているので積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。				
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 第11版/著:坂井建雄、岡田隆夫、宇賀貴紀/医学書院/2022 「系統看護学講座」準拠 解剖生理学ワークブック/編:坂井建雄、岡田隆夫/医学書院/2022				
参考書	人体の構造と機能 第5版/編:内田さえ、佐伯由香、原田玲子/医歯薬出版/2019 なるほどなっとく!解剖生理学 改訂2版/著:多久和典子、多久和陽/南山堂/2019 看護師国家試験 解剖生理学クリアブック 第2版第5刷/編:日本生理学会教育委員会/医学書院/2019				
外部教材	Learn the foundations of human anatomy (MichiganX's Anatomy) Glen M Fox et al, edX				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	骨・筋の構造について理解し、身体の支持と運動、筋収縮の特徴について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
②	脳の構造と機能、脊髄の構造と各伝導路について理解し、説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
③	自律神経やホルモンの作用について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
④	感覚器の種類、構造、機能、感覚器の障害について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
⑤	ヒトが受精卵として始まることから老化・死に至る身体の変化について説明できる。		HSU(1)(2)、NS(1)		
授業計画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	内臓機能の調節①:自律神経と内分泌系による調節について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p241～253、ワーク p64～67で予習・復習を行う。	1	
2	内臓機能の調節②:全身の内分泌腺と内分泌細胞について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p254～273、ワーク p67～69で予習・復習を行う。	1	
3	内臓機能の調節③:ホルモン分泌の調節とホルモンによる調節の実際について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p273～280、ワーク p70～71で予習・復習を行う。	1	
4	内臓機能の調節のまとめ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p241～280、ワーク p64～71を確認する。	1	
5	身体機能の防御と適応①:皮膚の構造と機能について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p435～439、ワーク p100で予習・復習を行う。	1	
6	身体機能の防御と適応②:生体の防御機構について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p439～450、ワーク p101～102で予習・復習を行う。	1	
7	身体機能の防御と適応③:代謝と運動、体温とその調節について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p451～457、ワーク p103で予習・復習を行う。	1	
8	身体機能の防御と適応のまとめ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p435～457、ワーク p100～103を確認する。	1	
9	身体の支持と運動①:骨格と骨の連結について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p283～292、ワーク p72～74で予習・復習を行う。	1	

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

10	身体の支持と運動②:骨格筋、体幹の骨格と筋について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p292～306、ワーク p73～79で予習・復習を行う。	1	
11	身体の支持と運動③:上肢の骨格と筋について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p306～320、ワーク p80～81で予習・復習を行う。	1	
12	身体の支持と運動④:下肢の骨格と筋について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p320～332、ワーク 82～84で予習・復習を行う。	1	
13	身体の支持と運動⑤:頭頸部の骨格と筋、筋収縮について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p332～335、ワーク p85～87で予習・復習を行う。	1	
14	身体の支持と運動のまとめ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p283～335、ワーク p72～87を確認する。	1	
15	生殖・発生と老化①:男性生殖器と女性生殖器について学ぶ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p461～475、ワーク p104～107で予習・復習を行う。	1	
16	生殖・発生と老化②:受精と胎児の発生について学ぶ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p475～489、ワーク p108～109で予習・復習を行う。	1	
17	生殖・発生と老化③:成長と老化について学ぶ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p489～499で予習・復習を行う。	1	
18	生殖・発生と老化のまとめ [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p461～499、ワーク p104～109を確認する。	1	
19	情報の受容と処理①:神経系の構造と機能について学ぶ。 [担当:稲場]	同時双方向型授業	教科書 p359～368、ワーク p88～89で予習・復習を行う。	1	
20	情報の受容と処理②:脊髄と脳、脊髄神経と脳神経について学ぶ。 [担当:稲場]	同時双方向型授業	教科書 p368～391、ワーク p90～93で予習・復習を行う。	1	
21	情報の受容と処理③:脳の統合機能について学ぶ。 [担当:稲場]	同時双方向型授業	教科書 p420～432、ワーク p99で予習・復習を行う。	1	
22	情報の受容と処理④:運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路について学ぶ。 [担当:稲場]	同時双方向型授業	教科書 p391～397、ワーク p94で予習・復習を行う。	1	
23	情報の受容と処理⑤:眼の構造と視覚について学ぶ。 [担当:稲場]	同時双方向型授業	教科書 p397～407、ワーク p95～96で予習・復習を行う。	1	
24	情報の受容と処理⑥:耳の構造と聴覚、味覚と嗅覚について学ぶ。 [担当:稲場]	同時双方向型授業	教科書 p408～415、ワーク p97～98で予習・復習を行う。	1	
25	情報の受容と処理⑦:痛み(疼痛)について学ぶ。 [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p415～420、ワーク p99で予習・復習を行う。	1	
26	情報の受容と処理のまとめ 「肉眼解剖学実習」に向けた学習: [担当:坂本]	同時双方向型授業	教科書 p359～432、ワーク p88～99を確認する。	1	
27	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1	
28	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1	
29	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1	
30	「肉眼解剖学実習」	講義・実習	教科書、ワーク、授業内で配布した課題を確認する。	1	
試	筆記試験				

【専門科目領域/専門基礎科目群/人間の構造や機能と疾病の成り立ち】

達成度評価							
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポータル	その他	合計
		70	0	0	0	30	100
総合力指標	知識・技術力	50	0	0	0	10	60
	思考・推論・創造する力	20	0	0	0	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	10	10
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	10	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①	✓	学期末に筆記試験を実施して評価する(全体評価の70%)。試験では、各単元の基礎知識を問う問題とし、教科書・ワークブック・授業毎に配布する課題から出題する。				テスト結果の開示を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
レポート	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポータル	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各回の授業で提示する課題の提出にて評価する(全体評価の30%)。				添削・評価の後、返却する。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥						
備 考							
他 担 当 教 員	稲場直子 肉眼解剖学実習時には、志茂聡、成昌燮も参加指導する。						
教員の実務経験	担当教員は解剖学・生理学で博士号(医学)を取得している。						
実践的授業の内容	人体の構造(解剖)と機能(生理)に関して、看護実践に重要なことに焦点をあて、疾病の発症機序および治療、日常生活との関係等を学ぶための基礎知識として、人体の構造と機能を理解する。この授業では、実際に人体解剖に携わってきた教員により、経験に基づく様々な視点から人体の構造についての具体的な解説がなされるため、やがて臨床家となる受講者にとっては実際に即した知識を獲得でき、受講者の疑問への対応を通して、より実践的な教育を受けることができる。						
そ の 他	「肉眼解剖学実習」は、山梨大学医学部解剖学実習室において実施予定。詳細は、後日連絡する。 Teamsを使った同時双方向型授業を行う。 同時双方向型授業時は通信容量が無制限のインターネット環境を推奨する。 課題や資料のダウンロードや動画視聴などがありますので、通信容量制限のある場合は通信量に十分に注意すること。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更の可能性があります。						